

頑張る

# 農業法人

高齢化が進む中、農地と集落を守ろうと、京丹波町安井地区と塩田谷地区の農家28戸で2007年に立ち上げた農事組合

法人「京丹波ほたるの里」で、05年に両地区の5人で任意団体の「楽農ファーム」を結成。休耕田で黒大豆の生産に取り組んできた。

法人「京丹波ほたるの里」。集積した農地で水稲や特産の丹波黒大豆、京都大納言小豆などを栽培する他、農作業受託で農地保全に取り組む。女性部の「夢ほたる」は、農産物の加工・販売の他、都市住民との交流も積極的に

現在、代表理事の谷山建夫さん(66)と4人の理事、監事2人で経営を行う。組合員も30人に増えた。

両地区は、以前は農家1戸当たりの面積が約50坪と小さく、営農組織がなかったことから、高齢化、後継者不足による農地の保全が課題だった。J A京都や行政の働き掛

同組合では水稲6畝、黒大豆1・5畝、小豆0・6畝で生産を行い、1畝の水稲田植えや収穫、畦の草刈りなどの作業受託で農地の保全に努める。また、法人化の翌年に

設立した女性部「夢ほたる」の活動も見逃せない。美しい故郷を女性の力で

守ろうと、組合員家族の全女性30人が参加する。農作物の植え付け作業や黒大豆を使ったみそや餅の加工・販売などを行う。

## 農事組合 京丹波ほたるの里 京丹波町



絆が深まる法人の女性部メンバーと役員たち

### パワー集め地域活性

## 黒大豆生産、加工品販売も

女性部長の谷口満智子さん(74)は「京都縦貫自動車道路に道の駅ができるので、『ほたるの里』の名を売り出せる特産品を作りたい」と意気込む。また、大阪府島本町若山台地区との相互交流や、府の「おいしい食の消費者応援隊」事業を活用した黒大豆収穫などの農業体験など、都市住民との交流を活発に行い、地域振興にも力を入れる。

谷山代表理事は「組合の活動を通じて、地域全体を盛り上げていこうと、皆さんがパワーを結集してくれている。特に女性がけん引役となってくれていることがうれし。都市住民との交流を一層活性化させて、『ほたるの里』のファンを増やし、定着させていきたい」と話す。

▽法人連絡先(谷山さん宅) 〓京丹波町安井観音寺44。電話〓07771(82) 0792。